



資料 2

2023年11月2日

第26-27期会員の選考について

日本学術会議会長 光石衛

日本学術会議副会長 日比谷潤子

会員候補者選考方針（候補者に求める資質等）

● 会員候補者に求める資質

「優れた研究又は業績がある科学者」（日本学術会議法第17条）に加えて、

- ・ 国内外の学術及び社会の動向を的確に把握し、科学・技術の発展方向を広い視野から展望して異なる専門分野間をつなぐことができること
- ・ 国内外の学術及び社会の動向を的確に把握し、科学・技術の発展方向を広い視野から展望しつつ、政府や社会と対話し、課題解決に向けて取り組む意欲と能力を有すること

のいずれかを備えていることを考慮

● 専門分野の構成

- ・ 多様な学術分野（新興分野を含む）がバランスよく網羅されることを目指す
- ・ 第26期に重点的に取り組む事項、分野横断的・中長期的に取り組む課題等を想定（重点事項：① 持続可能で安全な社会づくり
② 人間性が尊重される豊かで幸福な社会の実現
③ ①、②に資する学術の発展 ④ 国際連携の一層の推進）
- ・ 非改選も含めて会員及び連携会員の総体として適切に取り組むことができるよう配慮

会員候補者選考で考慮した観点

- 会員の多様性が確保されるよう、以下の観点を考慮して選考
 - ・ **ジェンダーバランス**
第25期当初の女性会員の割合である37.7%と同程度又はそれ以上を目指す
 - ・ **地域分布**
各選考分科会において各地区（7地域）から1名以上の候補者を選考するよう努める
 - ・ **主たる活動領域**
実務の現場で優れた研究又は業績を有するに至った者の選考を考慮する
 - ・ **年齢構成**
若手の科学者からの積極的な選考に努める

会員候補者選考の進め方

● 選考分科会枠（基本は3つの部）

各分野の学問的専門性を踏まえ審議

会員候補者となるべき者を選考して選考委員会に提出

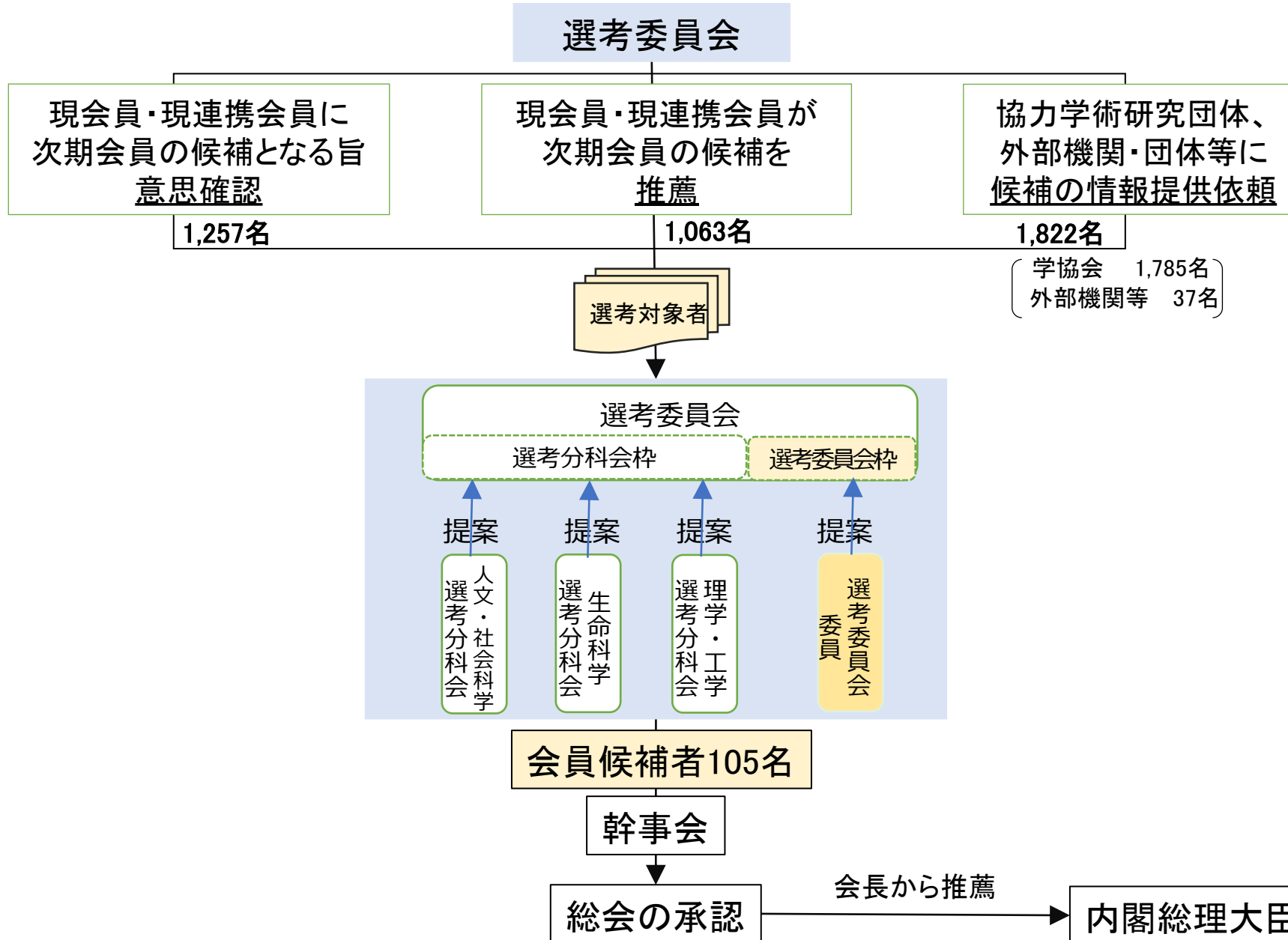
● 選考委員会枠

選考分科会枠の選考の後、以下に配慮して会員候補者となるべき者を選考

- ・ 学際的分野や新たな学術分野、第26期に重点的に取り組む事項、分野横断的・中長期的に取り組む課題に関する専門性
- ・ 実務の現場での優れた研究又は業績
- ・ 会員のジェンダーバランス等
- ・ 分野横断的な国際学術団体で重要な役割
- ・ ノーベル賞その他の学術的栄誉を受けるなど卓越した研究若しくは業績等

選考委員会枠を前期より拡大（前期 9名 → 今期 20名）

会員候補者選考の進め方



コ・オペレーション方式：

- 優れた研究又は業績がある会員及び連携会員が次期会員の候補となりうる者を推薦。関連する学術研究団体や外部団体等からも情報提供を受ける
- 学術に関しては**専門性を持つ者にその価値の判断をゆだねる**ことが適当であり、**科学者が自律した集団として公共的役割を果たす**という観点から採用（海外アカデミーでも採用）

任命後に各会員について

- 研究又は業績の内容
- 選考方針に基づく選考理由
- 会員としての抱負を公表

会員選考に関する説明責任の強化

1) 選考方針の決定

学協会や外部団体からの意見を反映

2) 選考方針の公表

総会で定めた後、日本学術会議HP上で公開（令和4（2022）年4月19日）

3) 情報提供依頼先の拡充

従来の協力学術研究団体に加え、大学関係団体、学術関連機関、
経済団体、専門職団体、その他の社会団体に情報提供を依頼

4) 任命後の情報公表

選考過程に関する報告を公表（令和5（2023）年11月予定）

各会員について、研究又は業績の内容、選考方針に基づく選考理由、
抱負を公表（令和5（2023）年10月31日）

会員候補者選考結果

	選考結果	参考（第25期実績）		
女性割合	第26期期首の割合 38.8%	第25期期首の割合 37.7%		
地域分布	各選考分科会において全ての地区（7地区）から1名以上の候補者を選考	第25期も同様		
年齢構成	(R5.10.1 見込)			
	平均年齢	57.9 歳	平均年齢	58.5 歳
	最高年齢	66 歳	最高年齢	66 歳
	最少年齢	46 歳	最少年齢	45 歳
	49 歳以下	9 名	49 歳以下	5 名
	50－54 歳	17 名	50－54 歳	10 名
	55－59 歳	28 名	55－59 歳	36 名
60－63 歳	42 名	60－63 歳	37 名	
64 歳以上	9 名	64 歳以上	11 名	
	(R2.10.1 時点)			